

明海大学不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第488回

【学生の目】

北海道神宮（写真）の御朱印を集めるため、初めて札幌市を訪れた。北海道らしい不動産を見学できるといふ期待もあったが、降り立った札幌駅で見渡した周辺の景色は東京と同じで、少し悲しかった。

不動産の魅力

この感情を深掘りし、不動産の魅力を考えた。不動産の魅力は、土地の自然的特性と建物の人文的的特性の融合にあると考えている。両者の特性には異なる側面がある。土地は、水はけが良いなど多少の違いはあるが、位置は固定で同じものは二つと

ない、唯一無二の特質がある。一方、建物は土地と異なり、同じ形質と構造で量産できる。つまり、不動産は、異なる特性を持つ土地と建物で構成され、両者の組み合わせが更に特性を生み出すという構図をもっている。

性を生む構図は、不動産と人に共通すると考えている。組み立てた結果としての独自性は、建物や外構、更には維持管理によってもたらされる空間のバランス感、緊張感のようなもので、人と同様、大切に生きようとする思いから伝わる個性である。

不動産の構図が「人」にも通じる点で、不動産の魅力であり面白さでもある。人は不動産と比べて複雑ではあるが、身体が大きい、足が速い

今回の「悲しい」という感情は建物の量産可能性がそのまま目に飛び込み、そこに加わってほしい北海道独自の空間構成を感じることができなかったことに起因すると思われる。しかし、札幌の街全体に視点を拡げると十分に独自性がある面白

自然的特性と人文的特性の融合

など、人それぞれ特性はある。しかし、誰一人として同じ人間はいない。この点で唯一無二の存在である。他方、言語、スキルやマナーや

い。建物は東京のようで、碁盤の目の道路は京都のようだ。また車道と歩道が広く設定されているのは、北国の冬を意識したものだろう。札幌の街全体は東京、京都

【教員のコメント】

式だが、自然との調和があつて管理が隅々まで行き届き、野生のリスも生息していた。地元の人だけでなく、動植物とも共生する、際立つ独自性が印象的である。

など習得可能な文化や教養が存在し、誰もが同様に身に付けて行動している。この点で再生可能な特性を持つ。

に加えてその風土が融合した組み立てに独自性があり、十分に旅情を誘つものである。

様式に従って立つ建物はゆるぎない造形美の一方で、独自性の乏しさや不自然さに懸念が残る。現地に漂う空間・時間・人間の力が、遠隔で抱く懸念を凌駕して感動を与えることは不動産の魅力であると同時に旅の魅力で、貴重な資源である。

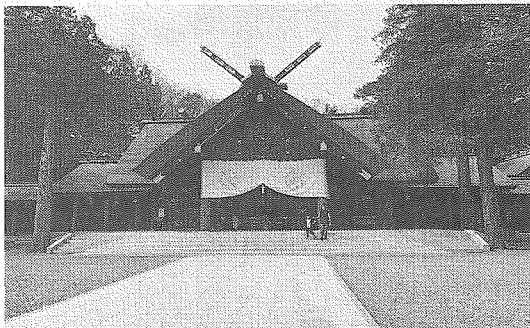


中村 諒人

不動産学部4年

唯一無二のものの上に再生可能なものを積み立て、組み立て方が独自

北海道神宮には「また来たい」と思った。建物は伊勢神宮に通じる様



北海道神宮は、動植物と共生する独自性が印象的だ